

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2974300093
法人名	株式会社 エース
事業所名	グループホーム 太陽十津川 折立の郷
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364-1 (電話)0746-64-0564
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年4月29日

【情報提供票より】(平成20年 4月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 7 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	人
非常勤	人
常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	1,300 円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	○有(150,000 円)	有りの場合償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 25日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	52 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川医院 千葉歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開所4年目を迎える当施設は、奈良県の最南端十津川村にある唯一のグループホームである。当初より、「来る人拒まず」の姿勢で、他に行き場のない利用者の受け入れをし、管理者、職員共に最終選択の場としての思いで、利用者へ寄り添い、その人らしい日常が過せるように支援している。混乱していた利用者も澄んだ空気、緑の山々、地場野菜の美味しい料理、そしてなによりも当人の思いを否定しない忍耐強い温かい介護で、徐々に落ち着きを取り戻し、ゆったり、ほんびりした生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の職員への浸透は、今回地域密着型として、解りやすく見直され、日常の会話のなかで徐々に浸透している。介護計画書は、遠方の外部のケアマネージャーにより作成されているが、アセスメントや急変時の見直しが十分出来ていない。近々、専属のケアマネージャーが入職されるとのことなので介護計画書の充実を期待したい。職員研修は、勤務体制や研修地などの理由で十分出来ていないが、管理者が受けた研修を、報告を兼ね職員にフィードバックするなどの体制を取ることが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価作成に、職員の参加を望みたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>第1回の運営推進会議が開催され、村担当者、婦人会など外部の人の参加を得て、事業所の日常生活の報告だけでなく、行政への要請や近隣住民への協力依頼などの話し合いが行なわれた。すでに次の議題も決まっており、続けて行なわれることを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が困り果てての形での入所が多いが、家族の意見や要望にはよく応えており、苦情についてはすぐに対応策がとられ、職員にも伝えられている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加し、近隣住民やボランティアの力を借りて草引き、話の相手、手芸品の作成、村の行事、祭り、ふれあいサロンへの参加、農作物の差し入れなど、交流がはかられている。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前の理念を見直し、地域密着型サービスとして、事業所独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について特別に話し合う場は設けていないが、日々の実践のなかで、話したり、注意をしたりしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、地域の祭りや行事に参加している。村社協のふれあいサロンに利用者が参加し、草引き、話し相手のボランティアが来られるなど、地域との交流が、よくはかられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者には評価の意義は理解されており、前回の評価を活かした具体的な取り組みが進みつつあるが、職員を交えての話し合いがされていない。	○	自己評価作成にあたり、職員も参加することにより、評価の意義や具体的な改善点などが明確になると思われる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年10月に村福祉事務所職員、婦人会、家族代表、管理者、ケアマネージャ、職員などの参加を得て、第1回の運営推進会議が開催された。事業所の活動報告の他に、祭日の医療機関受診、死亡診断書の発行、利用者の入所要請、緊急避難時の協力要請など、実のある話し合いがなされた。		今後も引き続き開催され、事業所の実情と利用者の生活ぶりが多くの地域住民に周知・理解されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村福祉事務所とは、よく連携が取れており運営推進会議にも協力的である。村のケアマネージャー職員からは利用者の一時預かりなどの要請があり、対応している。その他訪問介護関連で幅広く村役場と連携している。また地域の老人会のメンバーがボランティアで月2回くらい訪問、交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書、領収書送付時に写真や、手紙で暮らしぶりや、健康状態を知らせている。緊急時には電話にて報告し、指示を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には声掛けし、何でも言いやすいように心掛けている。不満や苦情に対しては、ケアマネージャーと相談のうえ、職員にも報告、指示書を出し改善をはかっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の実践の中で指導、研修している。事業所に必要な資格、研修は受けている。	○	働きながらのトレーニングは行なわれているが、運営者や管理者が外部で受けた研修を、順序だてて、職員にフィードバックさせる工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上	十津川村地域密着型サービス運営委員会に参加し、情報交換をしている。他事業所のイベントに参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	野迫川、上北山地区を含めても、グループホームはここだけであり、せっぱ詰まった家族の要望に応じており、交通の便を考えても、入所前に馴染む関係は出来難い。しかし、入所後は職員は辛抱強く利用者を支え、1～3ヶ月後にはどの利用者もグループホームの生活に馴染んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の話、戦争体験談、嫁姑のもめごと、ことわざ、隠語、農作物の育て方、料理など教わるが多くあり、(会話が多い)家族のような関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話のなかで利用者の思いや意向が把握できており、それぞれが思い通りの生活が出来るように、職員は支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者やケアマネージャーが家族の要望を考慮しながらADL中心の介護計画書が作成されている。	○	ケアマネージャーが近々交代されるとのことだが、介護計画の中に利用者の生活歴や思いを考慮し、職員の意見も取り入れて、作成されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの時期が明確でなく、対応できない変化が生じているが、見直しがされていない。	○	見直しの時期を明確にされ、変化のある時には、期間に関わらず見直しされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望で、時には利用者の家族を、預かる事がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	村内の内科医と提携しており、歯科は月に2回往診し、歯科治療、口腔ケアを行なっている。村内のかかりつけ医がある方は、そこに同行受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を定めており、医師の指示で家族と相談している。これまでに2人の方を看取っている。(看取りの指針を作成する前のことで、意思確認書などはない)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや業務日誌の文章に注意している。守秘義務については、特に厳しく指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大枠の流れはあるが、強制されることなく、利用者の気持ちを尊重した支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で出来た物やご近所からの頂き物など、季節の物が食卓にあがっている。職員のなかに調理師免許を持った方が3名おられ、利用者の意見も聞いて献立を決めている。昨日作った草もちを賞味させて頂いた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯は概ね決まっているが、夕食前まで臨機応変に対応されている。希望があれば同性介助もされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、カラオケ、縫い物、掃除、洗い物、日記を書く方、新聞を読む方、よく散歩に行く方などそれぞれの役割や楽しみごとを観つけ、支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や勤務体制などを考慮し、散歩や畑仕事などの支援がされている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に出たがる利用者があり、職員の気付かぬ間に出かけ、警察のお世話になったことがあり、安全面を考慮し、外からは自由に入れるが、中からは自由に開かない鍵を付けている。行動範囲を把握したうえで、出かけたことが分かれば、扉を開け同行したり、時間を見計らってお迎えに行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で緊急避難、初期消火の協力者の要請を行い、次回の会議では、このことについての話し合いが予定されているが、非常災害時の対策は遅れている。	○	煙感知器、熱感知器、火災報知機など設置予定されているが、建物の構造をみても、日頃の避難訓練が大切であると思われる。風呂場からの出火の場合2階の利用者をどのように誘導するかなど、実情に則した計画と訓練が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食物、水分摂取量は記録されており、栄養バランスやカロリー計算は役場の管理栄養士に聞いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には食卓の他にホームコタツやソファ、丸テーブルが置かれおり、大きな丸太の上にテレビが設置されている。窓からは、国道の向こうに緑の山々が見渡せ、のんびりと家庭的な空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレと洗面台が設置され、これまでの生活習慣で畳敷きの部屋が多い。使い慣れた家具などを持ち込まれる方は少なく、事業所が用意したタンスが使いやすいように置かれ、仏壇にお花やお水をお供えするなど、その人らしい部屋になっている。		